

年頭挨拶

2024 年 1 月
会長 藤原 弘之

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

このたびの令和 6 年能登半島地震の被害に遭われた会員の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて、昨年 5 月に新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行しました。2020 年 1 月に国内初の感染者が発表されて以来 3 年、その間企業や個人は様々な制約を受けながらも忍耐強く個々の課題に取り組み、昨今は社会、経済も徐々に活力を取り戻しています。喜ばしい変化であり、人類のレジリエンスが頼もしくも感じられます。一方で、ロシアのウクライナ侵攻に加え昨年新たにイスラエルでの紛争が勃発し、平和の見通しが不透明なまま年を越すこととなりました。

我が国の経済環境は、裾野の広い自動車産業の復調に牽引され製造業に改善傾向が見られるものの、中国経済の不振や物価高による個人消費の伸び悩みがあり楽観できない状況です。粗鋼生産は昨年並みで 9 千万トンを切る見込みであり、耐火物生産も上期実績が約 43 万トン、年度ベースでも昨年度の 90 万トンの水準に達するのは厳しい様相です。また、円安基調の下、輸入に依存するエネルギー・原材料価格の高止まりが収益を圧迫しており、一段のコスト削減が求められております。

さて、年頭にあたり、以下 2 点について述べさせていただきます。

まず、カーボンニュートラルへの取り組みについてです。

CO₂排出量の削減はグローバルな共通課題であり、我が国の製造業も長期的視野に立ったチャレンジが求められています。耐火物業界においても、生産プロセス、設備、商品開発、仕事の進め方などあらゆる切り口から取り組みの可能性を追求し、ゼロエミッションを目指す社会のニーズ、お客様のご要望にお応えしていくことが重要です。

次に安全確保に向けた活動です。

昨年は 11 月に 3 年振りとなる全国労働安全衛生大会が対面で開催されました。災害事例の発表が行われ、職場の安全に対する各社の意識の高さと真剣な取り組み姿勢を直に感じることができる貴重な機会となったと思います。皆様の努力が実り、昨年の労働災害の総件数は前年から減少し、改善傾向が見られます。耐火物業の社会的使命を認識しサステナブルな産業として存続できるよう、引き続き無災害に向け業界一丸となった取り組みを進めたく、会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、本年が、会員の皆様と皆様のご家族にとって、健康で充実した一年となることを祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。